

令和8年度 稲沢市地域自立支援協議会 全体会 議事要旨

【日 時】 令和8年4月17日（金）午後2時～午後3時15分

【場 所】 稲沢市役所 本庁舎2階 政策審議室

【出席者】 稲沢市地域自立支援協議会委員 28人、事務局8人

【欠席者】 稲沢市地域自立支援協議会委員 2人

【議 事】

○委嘱状交付

○令和8年度 委員交代について

○あいさつ

市長あいさつ（あいさつ後、市長退席）

会長あいさつ

事務局あいさつ

1 議題

(1) 令和7年度の取り組みと個別支援会議からの課題について

（各部会長、事務局から報告）

野崎氏 会長のあいさつのなかで、東京大学の熊谷教授の「自立とは依存先を増やすことだ」という言葉があった。自立支援協議会の活動が広がっていくなかで、障害のあるかたたちが自立のために依存先を増やしていく。委員のみなさんが、その依存先になりうる価値があると思うので、この活動が障害者のかたのニーズから外れないことを願う。

地域生活支援部会について、これからに向けて障害のあるかたやご家族が安心して生活していくために活動していくことが大きな課題としてあったかと思う。課題のひとつの地域生活支援拠点について、まだ目標の半分にも届いていないということで、今年度はALL稲沢で少しでも目標に近づける活動をしていただきたい。就労支援部会について、就労選択支援事業の始まりとともに稲沢市にも事業所ができたことで、稲沢市の働きたいと思っている障害のあるかたが、もっと地域のなかで働けるよう実績を作る第一歩となった。実績を積み上げていくために、イチ事業所に任せるだけでなく、全体でもっと働ける地域を作ることをテーマにしていきたい。

権利擁護推進部会で、稲沢市が力を入れていると思うことが、障害者差別解消法の取り組みだ。障害者差別解消法ができ、合理的配慮が民間事業者（以下、「事業者」という。）にも義務化されたなかで、合理的配慮は進んだのかという当事者への問いに対して、多くが進んでいる実感はないと述べているという記事を昨年目にし

た。事業者側の合理的配慮が進んでいないという問題が、依然として残っている。それは、当事者の声が上がっていないことと、事業者が合理的配慮で建設的な対応ができるという体制が整っていないということではないか。障害のあるかたが暮らしやすく、差別のない地域のために、ぜひ支援に関わっていただきたい。こども部会では、昨年度、児童発達支援センターが整備され、地域として整ってきたと思う。しかし、1点気になったこととして、配布資料のなかで「強度行動障害者に関すること」と記載があるが、認識として「強度行動障害者」という人はいない。環境が整っていないために強度行動障害という状態が生まれてしまうと考えると、強度行動障害にならないような子どものころからの育ちの過程を、一番大切にしなければいけない。また、福祉関係が強度行動障害の状態を作り出してしまっている可能性も指摘されている。強度行動障害の状態の人の居場所がないという問題ももちろんあるが、こども部会では、生み出さないことにも力を入れていただきたい。

研修や人材育成など、様々な取り組みをしている一方で、日中支援型グループホームが人材不足で開設中止となったというのは、かなりショッキングな話だ。今後も福祉サービスや必要な社会資源ができて、活躍する人材が足りないということが起きてくるのではないか。ぜひ、人材育成や障害福祉に関心を寄せてもらうことにも力を入れてもらいたい。

最後に、市長あいさつのなかで、高次脳機能障害の新たな法律ができたという話があった。稲沢市では、高次脳機能障害に関わり、取り組んだことは、あまりなかったのではないか。当事者も含め、高次脳機能障害で困っているかたの声も反映できる取り組みも今後必要になってくる。

事務局 いただいたご意見を、令和8年度の取り組みに活かしていくとともに、高次脳機能障害者支援法の施行や医療的ケア児支援法改正の話も出ているところなので、社会情勢にも耳を傾け、目を向けながら、各委員の意見を聞いて取組んでいきたい。

(2) 令和8年度 稲沢市地域自立支援協議会年間計画（案）について

- ・会議日程表（案）、年間計画（案）について

事務局から、令和8年度の地域自立支援協議会の各部会等の会議日程と連絡会を含めた年間計画の案について、説明 ⇒疑義等なしで承認

2 その他

- ・講演会の案内（副会長とこども部会所属委員から案内）

講演会の実施について紹介

- ・議事要旨、報酬について（事務局から案内）

各会議の議事要旨のホームページ掲載と令和8年度委員報酬の支払について案内

会 長 自立支援協議会の会議でいつも思うのだが、福祉とは普通のくらしの幸せと聞いた。普通のくらしの幸せとはなんだろう、と考えると、誰もが自分らしく安心して暮らせる社会なのではないか。我々、自立支援協議会が普通のくらしの幸せを届けて誰もが自分らしく生きられる社会づくりの場ではないかと思うので、最初に話した「自立とは」ということと合わせて頭に置いて会議を進めていきたい。